

## 再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課  
担当課長名：服部 卓也

事業名	地域高規格道路 <small>おおいたちゅうおうかんせん</small> 大分中央幹線道路 都市計画道路 <small>しょう はるさの</small> 庄の原佐野線（下郡工区）	事業区分	街路	事業主体	大分県
起終点	自：大分県大分市大字下郡 <small>おおいた しもごおり</small> 至：大分県大分市下郡南 <small>おおいた しもごおりみなみ</small>	延長	0.9km		
事業概要					
<p>地域高規格道路大分中央幹線道路は、「東九州自動車道 大分 IC」と大分米良 IC と接続する「（主）中判田下郡線」を結ぶ、延長約 6km の路線である。</p> <p>このうち、（都）庄の原佐野線（下郡工区）は、東九州自動車道等の広域幹線道路とのネットワーク強化や、周辺道路の交通渋滞の緩和に寄与することを目的とする延長 0.9km の街路事業である。</p>					
H29年度事業化	H28年度都市計画決定 (R元年度変更)	R元年度用地着手	R4年度工事着手		
全体事業費	約 207 億円	事業進捗率	約 35%	供用済延長	— km
計画交通量	37,500 台/日				
費用対効果	B/C (事業全体) 1.3  (残事業) 2.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 100/192 億円 事業費：99/191 億円 維持管理費：1/1 億円 更新費：0/0 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 242/242 億円 走行時間短縮便益：199/199 億円 走行経費減少便益：26/26 億円 交通事故減少便益：17/17 億円	基準年	令和 5 年
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.1~1.4 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.2~2.7 (交通量±10%)          事業費：B/C=1.2~1.3 (事業費±10%) 事業費：B/C=2.2~2.7 (事業費±10%)          事業期間：B/C=1.2~1.3 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=2.3~2.4 (事業期間±20%)</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通容量の拡大により特に朝夕通勤ラッシュ時の交通渋滞の緩和に寄与する。</li> <li>中心市街地と広域防災拠点である大分スポーツ公園や米良 IC のアクセス向上が図れる。</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画決定の手続きにおいて、周辺住民と合意形成を図っている</li> <li>「大分都市計画区域マスタープラン」(H16.4 策定、H23.3 改訂、R3.3 月改訂) において「特に優先的に整備もしくは事業化を目標とする区間」に位置付けられている</li> <li>沿線自治会で構成される「庄の原佐野線滝尾・明野地区促進期成会」等から、本事業の早期完成の要望活動が行われている。</li> </ul>					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約 85%、事業進捗率約 35%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
残る用地の取得を継続しており、今後は早期完了を目指し、橋梁下部工等の工事を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等					
今後も現地発生土の有効活用や、新技術の採用、工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。				

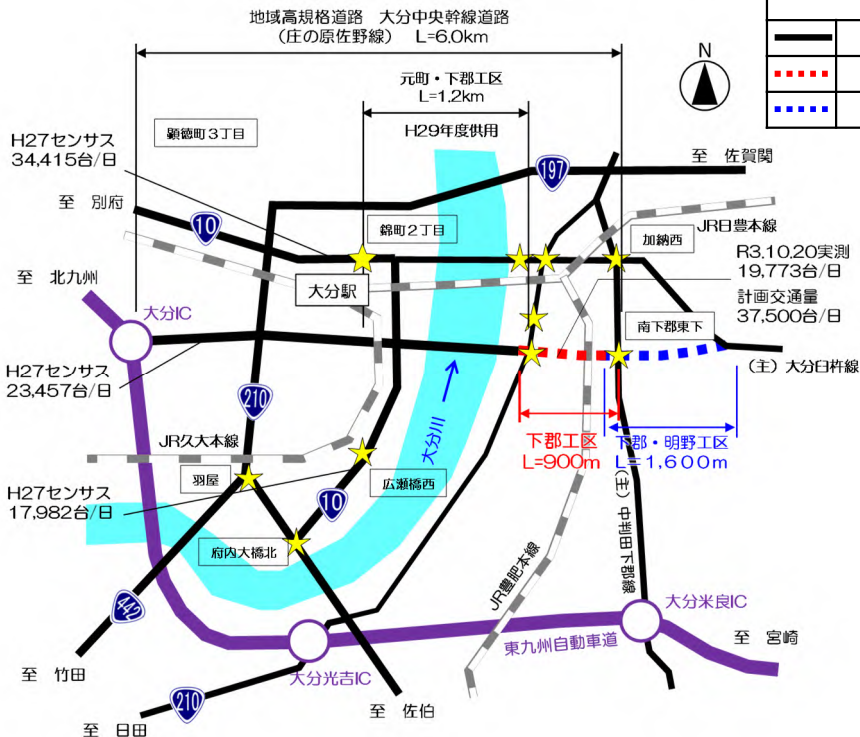
事業概要図



大分県  
当該箇所

★	主要渋滞箇所
---	--------

—	開通区間
---	下郡工区
---	下郡・明野工区



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。